

みなさん、こんばんは。2月7日に福岡のホテルオークラで行われました福岡西ロータアクトクラブの45周年記念例会に出席して参りました。私は当時所属し、矢野幹事も福岡出身ということでご同席いただきました。RACというのは約50年前にできて、日本で普及し始めたのは44～45年前だったかと思います。はしりの頃にできたばかりで、ちょうど私も昭和50年に大学を卒業して直ぐロータアンであった経営者の紹介で入会致しました。5～6年とやっているうちにロータリーの魅力のひとつとして若いながら受け止めまして卒業させていただきました。

40年前のことでしたが、10人ほどの同窓生や先輩方はいらっしゃいまして、初代のRACの会長は大出世されて九州電力の副会長までされておりました。今、九州電力の送電会社の社長を大分でなさっていました。私を除けば非常に真面目で世の中に影響の大なる方がいらっしゃったのだなと思ってまいりました。

その後、私は19年前に原宿RCに入り、その頃大先輩の林武彦さんであるとか伊勢丹フレンチの安藤先生とか靴のダイアナさんもいらっしゃいました。そういう方々に揉まれながら過ごしました。今日出席しております長男の公輔は当時14歳でございまして、子弟教育の一環としてクラブ例会などに連れて行って勉強させたのです。一番下の子供が当時4歳、32歳になる公輔が14歳でした。私が出来ないことを諸先輩方が大学とはこういうものだ、世の中とはこういうものだと教えていただきまして、私もRCによりまして自分の子供4人を無事育てることができたと思います。

そういう意味では青少年教育につきましては今、水野PDGがトップに立って地区でやっておられるわけですが、RCというのは青少年を育てるというより、青少年の目から見てもあいうふうになってみたいと思われるようなロータリアンに我々はな于行かなければならぬと思います。

「ああせい、こうせいではなく、あのような方になりたい」と。茨木さんのような弁護士に、洲浜さんのような不動産鑑定士になって生きたいのだ。そのためには自分は今こういう勉強をしなければならぬ、こういうスポーツをやらなければいけない。このように自然に青少年の心に湧き出でる炎を燃やし続けられるようなロータリアンに私共はなっていかなければいけないんじゃないかなと思います。私は家庭では子供の教育が何も出来なかった分、このRCの先輩方にその部分を教えていただいたのです。そういう意味では、非常に恵まれた環境で子供の教育をすることができました。RCには素晴らしいところは沢山ありますが、まず青少年教育について、とにかく効用があるということを皆さんも分かっていたらいい、それを目指すべく人間に、ロータリアンになっていただきたいというふうに思うわけです。今日は以上です。